

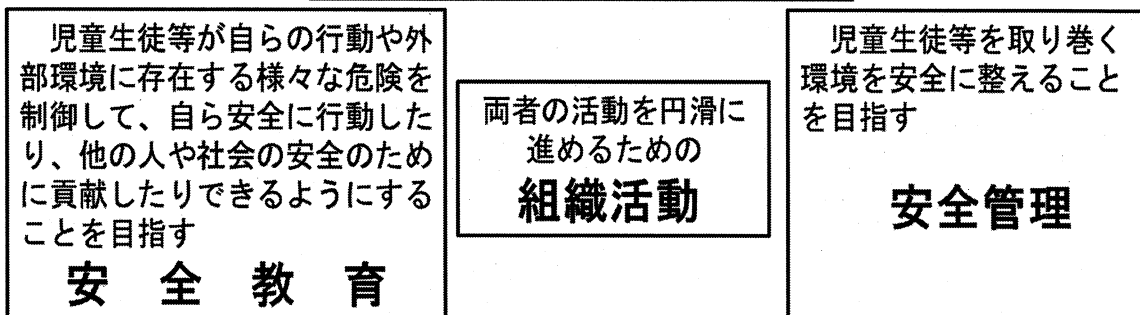
# 7 健康教育（安全教育）

## 2 健康教育(安全教育)における教育課程編成上のポイント

- (1) 自助、共助、公助の視点を適切に取り入れながら、地域の特性や児童生徒等の実情に応じて各教科等の安全に関する内容のつながりを整理し、教育課程を編成することが必要である。具体的には、各教科や総合的な学習の時間、特別活動等において年間を通じて指導すべき内容を整理して、学校安全計画に位置付けることが大切であり、系統的・体系的で実践的な安全教育を計画的に実施することが求められている。
- (2) 教育課程全体を見通して、どの教科等において何に取り組むのかということや、それぞれの活動がどのように関連しているのかということについて、あらかじめ整理し、教職員の共通理解を得ておくことが必要である。

例えば、地域の防犯、防災、交通安全に係る安全マップづくりは、児童生徒等自身に周囲の環境における危険箇所の確認や危険予測を行わせたり、具体的な行動を考えさせたりする上で有効であるが、地域の歴史や自然環境を学ぶための活動を関連させることにより、児童生徒等が地域を様々な観点から理解することにも役立つものである。このため、安全教育の観点だけではなく、教科等の目標と関連付けた地域学習の一環として位置付けるなどの工夫が必要である。
- (3) 児童生徒等の意識の変容などの教育課程の実施状況に関する各種データの把握・分析を通じて、安全教育に関する取組状況を把握・検証し、その結果を教育課程の改善につなげていくなど、カリキュラム・マネジメントの確立を通じて地域の特性や児童生徒等の実情に応じた安全教育を推進することが必要である。

### 学校安全の三つの主要な活動



安全教育と安全管理は学校安全の両輪とされ、相互に関連付けて行う必要がある  
また、校内組織、家庭・地域社会と連携を図る組織などの活動との関連付けも図る

【学校安全の領域】 生活安全・災害安全・交通安全・新たな危機事象

### 3 新学習指導要領における健康教育(安全教育)

新学習指導要領における「安全教育」について育成を目指す資質・能力に関する各教科等の内容（下線は健康教育（安全教育）に係る内容）

小学校	中学校
<p>●総則 第1の2</p> <p>(3)学校における体育・健康に関する指導を、児童の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で<u>安全な生活</u>と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、<u>安全に関する指導</u>及び心身の健康の保持増進に関する指導については、体育科、家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・<u>安全</u>で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること。</p> <p>第5の1</p> <p>イ 教育課程の編成及び実施に当たっては、学校保健計画、学校安全計画、食に関する指導の全体計画、いじめの防止等のための対策に関する基本的な方針など、各分野における学校の全体計画等と関連付けながら、効果的な指導が行われるように留意するものとする。</p>	<p>●総則 第1の2</p> <p>(3)学校における体育・健康に関する指導を、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で<u>安全な生活</u>と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、<u>安全に関する指導</u>及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科、技術・家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・<u>安全</u>で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること。</p> <p>第5の1</p> <p>イ 教育課程の編成及び実施に当たっては、学校保健計画、学校安全計画、食に関する指導の全体計画、いじめの防止等のための対策に関する基本的な方針など、各分野における学校の全体計画等と関連付けながら、効果的な指導が行われるように留意するものとする。</p>
<p>●体育科</p> <p>&lt;第5学年及び第6学年&gt;</p> <p>2 内容</p> <p>A 体づくり運動</p> <p>(3)運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、<u>場や用具の安全</u>に気を配ったりすること。</p> <p>D 水泳</p> <p>(1)安全確保につながる運動では、背浮きや浮き沈みをしながら続けて長く浮くこと。</p> <p>G 保健</p> <p>(2)けがの防止について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア けがの防止に関する次の事項を理解するとともに、けがなどの簡単な手当をすること。</p> <p>(ア)交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、<u>的確な判断の下に安全に行動すること</u>、<u>環境を安全に整えること</u>が必要であること。</p>	<p>●保健体育科</p> <p>[体育分野]</p> <p>第2 各学年の目標及び内容</p> <p>&lt;第1学年及び第2学年&gt;</p> <p>2 内容</p> <p>H 体育理論</p> <p>(2)イ運動やスポーツの意義や効果と学び方や<u>安全な行い方</u>について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。</p> <p>[内容の取扱い]</p> <p>(2)エ「D水泳」(略)なお、学校や地域の実態に応じて、<u>安全を確保するための泳ぎ</u>を加えて履修させることができること。また、泳法との関連において水中からのスタート及びターンを取り上げること。なお、水泳の指導については、適切な水泳場の確保が困難な場合にはこれを扱わないことができるが、<u>水泳の事故防止に関する心得</u>については、<u>必ず取り上げる</u>こと。また、保健分野の<u>応急手当との関連</u>を図ること。</p> <p>[保健分野]</p> <p>2 内容</p>

<p>(イ)けがなどの簡単な手当は、速やかに行う必要があること。</p> <p>1 <u>けがを防止するために、危険の予測や回避の方法を考え、それらを表現すること。</u></p>	<p>(3)ア<u>傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。</u></p> <p>(ア)交通事故や自然災害などによる傷害は、<u>人的要因や環境要因などが関わって発生すること。</u></p> <p>(イ)交通事故などによる傷害の多くは、<u>安全な行動、環境の改善によって防止できること。</u></p> <p>(ウ)自然災害による傷害は、<u>災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。</u>また、<u>自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。</u></p> <p>(エ)応急手当を適切に行うことによって、<u>傷害の悪化を防止することができること。</u>また、<u>心肺蘇生法などを行うこと。</u></p> <p>1<u>傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。</u></p>
<p>●理科      &lt;第5学年&gt;      2 内容      B 生命・地球      (3)流れる水の働きと土地の変化      ア(ウ)雨の降り方によって、流れる水の量や速さは変わり、<u>増水により土地の様子が大きく変化する場合があること。</u></p> <p>(4)天気の変化      ア(イ)天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想できること。</p> <p>3 内容の取扱い      (5)内容の「B生命・地球」の(3)のアの(ウ)については、<u>自然災害についても触れること。</u></p> <p>(6)内容の「B生命・地球」の(4)のアの(イ)については、<u>台風の進路による天気の変化や台風と降雨との関係及びそれに伴う自然災害についても触れること。</u></p>	<p>●理科      [第2分野]      2 内容      (2)大地の成り立ちと変化      ア(ウ)火山と地震      (エ)自然の恵みと火山災害・地震災害</p> <p>(4)気象とその変化      ア(エ)自然の恵みと気象災害</p> <p>(7)自然と人間      ア(ア)生物と環境      ウ地域での自然災害  <u>地域の自然災害について、総合的に調べ、自然と人間との関わり方について認識すること。</u>      ウ身近な自然環境や地域の自然災害などを調べる観察、実験などを行い、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について、科学的に考察して判断すること。</p>
<p>●社会科      &lt;第4学年&gt;      2 内容      (3)<u>自然災害から人々を守る活動について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</u></p> <p>ア(ア)地域の関係機関や人々は、<u>自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。</u></p> <p>イ(ア)過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、<u>災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。</u></p> <p>3 内容の取扱い      (2)ア(ア)については、<u>地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などの中から、過去に県内で発生したものを選択して取り上げること。</u></p>	<p>●社会科      第2 各分野の目標及び内容      [地理的分野]      2 内容      C 日本の様々な地域      (1)地域調査の手法      (2)日本の地域的特色と地域区分      ア(ア)日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、<u>自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解すること。</u></p> <p>(4)地域の在り方      ア(ア)地域の<u>実態や課題解決のための取組</u>を理解すること。</p> <p>3 内容の取扱い      (5)ア(ア)地域調査に当たっては、<u>対象地域は学校周辺とし、主題は学校所在地の事情を踏まえて、防災、人口の偏在、産業の変容、交通の発達などの事象から適切に設定し、観察や調査を指導計画に位置付けて</u></p>

<p>イアの(ア)及びイの(ア)の「関係機関」については、県庁や市役所の働きなどを中心に上げ、<u>防災情報の発信、避難体制の確保などの働き、自衛隊など国の機関との関わり</u>を取り上げること。</p> <p>ウイの(ア)については、<u>地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできる</u>よう配慮すること。</p>	<p>実施すること。</p> <p>(イ) (略) また、課題の追究に当たり、例えば、<u>防災に関わり危険を予測したり、人口の偏在に関わり人口動態を推測したりする際には、縮尺の大きな地図や統計その他の資料を含む地理空間情報を適切に取り扱い、その活用の技能を高める</u>ようにすること。</p>
<p>●<b>家庭科</b></p> <p>第2 各学年の内容 〔第5学年及び第6学年〕</p> <p>1 内容 B 衣食住の生活</p> <p>(2)調理の基礎</p> <p>ア(イ)調理に必要な用具や食器の<u>安全で衛生的な取扱い</u>及び加熱用調理器具の<u>安全な取扱い</u>について理解し、適切に使用できること。</p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>3 実習の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1)施設・設備の<u>安全管理</u>に配慮し、学習環境を整備するとともに、熱源や用具、機械などの取扱いに注意して<u>事故防止の指導</u>を徹底すること。</p> <p>(2)服装を整え、衛生に留意して用具の手入れや保管を適切に行うこと。</p> <p>(3)調理に用いる食品については、生の魚や肉は扱わないなど、<u>安全・衛生に留意</u>すること。また、食物アレルギーについても配慮すること。</p>	<p>●<b>技術・家庭科</b></p> <p>第2 各分野の目標及び内容 〔技術分野〕</p> <p>2 内容 B 生物育成の技術</p> <p>(2)ア <u>安全・適切な栽培又は飼育、検査等</u>ができること。</p> <p>C エネルギー変換の技術</p> <p>(2)ア <u>安全・適切な製作、実装、点検及び調整等</u>ができること。</p> <p>〔家庭分野〕</p> <p>2 内容 B 衣食住の生活</p> <p>(3)ア(イ) <u>食品や調理用具等の安全と衛生</u>に留意した管理について理解し、適切にできること。</p> <p>(6)ア(イ) <u>家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全</u>を考えた住空間の整え方について理解すること。</p> <p>イ <u>家族の安全</u>を考えた住空間の整え方について考え工夫すること。</p>
<p>●<b>特別の教科 道徳</b></p> <p>第2 内容</p> <p>A 主として自分自身に関すること 〔節度、節制〕</p> <p>&lt;第1学年及び第2学年&gt; <u>健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に</u>し、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。</p> <p>&lt;第3学年及び第4学年&gt; 自分でできることは自分でやり、<u>安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活</u>をすること。</p> <p>&lt;第5学年及び第6学年&gt; <u>安全に気を付けること</u>や、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。</p>	<p>●<b>特別の教科 道徳</b></p> <p>第2 内容</p> <p>A 主として自分自身に関すること 〔節度、節制〕</p> <p>望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、<u>安全で調和のある生活</u>をすること。</p> <p>C 主として集団や社会との関わりに関すること 〔遵法精神、公德心〕</p> <p>法やまじりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、<u>自他の権利を大切に</u>し、義務を果たして、<u>規律ある安定した社会の実現</u>に努めること。</p>

<p>● <b>特別活動</b> 第2 各活動・学校行事の目標及び内容 〔学級活動〕 2 内容 (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 リ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、<u>事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。</u> 〔学校行事〕 (3) <u>健康安全・体育的行事</u> 心身の健全な発達や健康の保持増進、<u>事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。</u></p>	<p>● <b>特別活動</b> 第2 各活動・学校行事の目標及び内容 〔学級活動〕 2 内容 (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成、<u>節度ある生活を送るなど現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。</u> 〔学校行事〕 (3) <u>健康安全・体育的行事</u> 心身の健全な発達や健康の保持増進、<u>事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。</u></p>
--	--

### 「鳥取型防災教育の手引き」について

県内モデル校で実施した取組事例や、東日本大震災等の教訓を活かした「鳥取型防災教育の手引き（暫定版）」を各学校で実証していただき、その実証結果を踏まえ改良を行った「鳥取型防災教育の手引き（第1版）」（県危機管理局作成）を平成25年3月に作成しました。さらに、平成25年度には県教育委員会により改善とメニューの追加を行い「鳥取型防災教育の手引き」としました。この手引きにより継続的に防災教育に取り組みましょう。

#### <手引きの特色>

- (1) 全120の学習メニューを用意
- (2) 年間指導計画・指導案の中で防災教育を取り入れる場面を提示
- (3) 全メニューに指導案、ワークシート、参考資料等を用意

※ホームページ <http://www.pref.tottori.lg.jp/239259.htm>



### 「学校防災マニュアル（地震・津波災害）【参考資料】」について

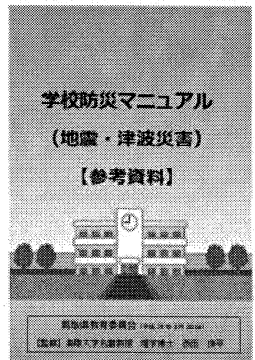
鳥取県教育委員会では、鳥取県中部地震や過去の大規模な地震災害等における課題等を踏まえ、地震・津波災害対策に重点を置いた「学校防災マニュアル（地震・津波災害）【参考資料】」を作成しました（平成29年3月28日）。

児童生徒の生命や身体の安全を守るため、保護者、地域、教育委員会及び関係機関と連携を図り、本資料を参考に各学校等において防災体制や学校防災マニュアル等を点検、見直しましょう。

#### <学校防災マニュアル作成のポイント> 3段階の危機管理

- ① 事前の危機管理（備える）
- ② 発生時の危機管理（命を守る）
- ③ 事後の危機管理（立て直す）

※ホームページ <http://www.pref.tottori.lg.jp/264587.htm>



# 4 単元等配列表 (例)

【中学校】 ※教科等における安全教育に係る学習について、いくつかの単元等を配列し  
 ※学校教育全体を見通すことができるよう学校安全計画の内容も含んでいる  
 ※学級活動の欄 ◎は1単位時間程度の指導 ●は短い時間の指導

項目		4	5	6	7・8	9		
道徳		生命の尊さ	集団の意義	自主自立	法の遵守	奉仕		
安全 全 学 習 時 間	社会		【地理的分野】 ・世界と比べた日本の地域 的特色(2) (自然災害と防災への努力)			【地理的分野】 ・日本の諸地域(2) (地域の自然災害に応じた 防災対策)	【 ( の	
	理科	・理科室における一般的注意(全) ・実験時の危険防止とふさわしい服装(全)	・薬品やガラス器具の使い方(全) ・加熱器具の使い方(全)		・自由研究実施上の注意(全)	・気体発生時の注意(1)	・い	
	美術	・美術室における一般的注意	・備品の点検整備	・絵の具、用具の保管や管理の指導	・防災ポスターの作成	・彫刻刀の正しい使い方	・	
	保健 体育	体育分野	・集団行動様式の徹底(全)	・自己の体力を知る(全) ・集団行動と協力性(全) ・備品の点検整備 ・新体力テストの行い方と測定の仕方(全)	・水泳の事故防止について(全) ・安全を確保するための泳ぎ(全)		・陸上運動の適切な場所の 使い方と測定の仕方(全)	・な (
		保健分野		・傷害の防止(応急手当) (全)	・傷害の予防 AED・心肺蘇生法等(実習)(1)		・喫煙、飲酒、薬物乱用と 健康(3)	・
	技術・家庭	※「栽培」を行う場合は、 農業の扱いに注意する。	・施設設備の使用上の注意 ・作業場所の確保と危険回避 ・実習室の使用上の注意	・日常での木製品の利用	・電気機器の利用と安全 ・はんだ付けによる火傷の 注意	・加熱と漏電 ・電気製品製作上の安全配 慮 ・備品検査	・衣食住の生活 ・自然災害に備えた住空間	・
					・調理実習における注意 (ガスコンロの使い方、換 気について)	・備品の点検整備		・
	総合的な 学習の時間	<活動例> 「我が町の交通安全対策調べ」 「学区安全マップづくり」 「災害と町づくり」 — 地域を知るフィールドワーク ※社会との関連 など						
	学 級 活 動	第1学年	●中学生になって ●通学路の確認 ●自分でできる安全点検 ●自転車の安全な乗り方	●部活動での安全 ●体育大会の取組と安全 ●清掃方法を確認しよう ●交通教室	●大雨時の避難や対応 ●雨天時の校舎内での過 ごし方 ●校内での事故と安全な生 活 ◎水泳、水の事故と安全	●自分の健康チェック ◎夏休みの生活設計と安全 (防犯)	●交通法規の意義と安全	● ● ●
		第2学年	●通学路の確認 ●自分でできる安全点検 ●交通事故の防止を考えよ う	●体育大会の取組と安全 ●清掃方法を確認しよう ●交通教室	●大雨時の避難や対応 ●雨天時の校舎内での過 ごし方 ◎水泳、水の事故と安全	●自分の健康チェック ◎夏休みの生活設計と安全 (防犯) ●中体連大会と安全	●交通事故の原因と安全	● ●
第3学年		●通学路の確認 ●自分でできる安全点検 ●心の安定と事故	●体育大会の取組と安全 ●清掃方法を確認しよう ●交通教室	●大雨時の避難や対応 ●雨天時の校舎内での過 ごし方 ◎水泳、水の事故と安全	●自分の健康チェック ◎夏休みの生活設計と安全 (防犯) ●中体連大会と安全	●交通事故の原因と事故の 特性	● ●	
生徒会活動		・部活動紹介 ・街頭交通安全指導 ・生活安全委員会	・体育大会 ・校内安全点検 ・街頭交通安全指導 ・生活安全委員会	・生徒会総会 ・生活安全委員会	・生活安全委員会	・生活安全委員会	・	
主な学校 行事等	・交通安全運動	・自転車安全教室	・防災対策避難訓練 ・心肺蘇生法講習会	・夏の交通安全運動	・秋の交通安全運動			
部活動	・活動ガイダンス	・部活動保護者会	・熱中症予防指導 ・心肺蘇生法講習会					
安全 管理	対人管理	・通学方法の調査・決定 ・安全のきまりの設定	・体育大会における身体の 安全について及びけがの予 防	・校舎内の安全生活 ・プールにおける安全管理 ・救急体制の見直し	・夏季休業中の部活動での 安全と対応 ・熱中症事故の防止	・身体の安全について及び けがの予防	・い	
	対物管理	・通学路の確認 ・安全点検 ・非常時の避難経路の確認 ・防火訓練、用具の点検整 備	・安全点検(1日)	・学校環境の安全点検及び 整備(階段・廊下・プール) ・安全点検(1日)	・プールの安全の点検 ・安全点検(1日)	・安全点検(1日)	・	
学校安全に関する組織 活動 (研修含む)	・春の交通安全運動啓発活 動 ・教職員・保護者の街頭指 導 ・危機管理体制に関する職 員研修 ・連絡メール配信システム の整備	・校外における生徒の安全 把握、情報交換	・地域学校安全委員会 (学校保健委員会) ・心肺蘇生法(AED)研修 ・水難事故防止訓練	・地域パトロール(みまも り隊) ・夜間パトロール ・地区懇談会 ・水難事故防止対策の願 い	・秋の交通安全運動の啓発 と街頭指導	・		
安全に関する 月の重点	安全な登下校をしよう	施設設備の 適切な使用法を学ぼう	梅雨期を安全に過ごそう	水の事故防止に努めよう	交通法規を理解し守ろう			

たものであり、全ての単元等を示したものではありません。

10	11	12	1	2	3
友情の尊さ	社会連帯	郷土愛	人間愛	生命の尊重	社会への奉仕
【公民的分野】 私たちの現代社会(3) 災害時における防災情報 発信・活用)	【公民的分野】 ・国民の生活と政府の役割 (3) (公害の防止など環境の保 全)		【地理的分野】 ・地域観察時の安全(2)	【公民的分野】 ・世界平和と人類の福祉の 増大(3) ・わが国の安全と防衛 (3)	
電気器具、加熱器具の使 方(2)	【第2分野】 ・気象とその変化 気象観測・天気の変化 (2)		【第2分野】 ・大地の成り立ちと変化 (1) ・火山と地震(1) ・自然の恵みと火山災害、 地震災害(1)	【第2分野】 ・気象とその変化(2) ・日本の気象(2) ・自然と人間(3) ・生物と環境(3)	【第2分野】 ・気象とその変化(2) ・自然の恵みと気象災害 (3)
小型ナイフの使い方		・塗装の際の一般的注意	・カッター、はさみ、コン パス等の使用上の注意		・教室での一般的諸注意 ・器具、用具点検
器械運動における段階的 練習と適切な補助の仕方 全)	・武道における場所、用具 の適切な使い方と手入れ (禁じ技等) 全)	・球技における適切な用具、 場所の使い方(ゴールの運搬や固定の仕方等)、ルールやマ ナーの徹底、ゲームの安全 全)			
		・感染症の予防(3)	・傷害の防止 (交通事故) (3)		
金属材料の性質と切断 日常での木製品の利用	・工作加工機械や工具の安全 や点検	・切断切削加工時の安全 ・備品の点検整備	・エネルギー変換の技術	・工作工具の安全な使い方	・塗装時の換気や火気
実習室の使用上の注意	・調理実習における注意 (ガスコンロの使い方、換 気について)	・備品の点検整備		・幼児との交流についての 注意	・備品の点検整備
文化祭の準備と安全 身の回りの環境を整えよ 交通事故の加害と被害	●自分の健康チェック	●冬休みの生活設計と安全 ●火気の注意	●自転車の安全で正しい乗 り方 ◎災害時の安全な避難方法 と、日常の備え(地震、津 波)	●けがの発生状況とその防 止 ●自分の健康チェック	●1年間の反省
身の回りの環境を整えよ 交通事故の加害と被害	●自分の健康チェック	●冬休みの生活設計と安全 ●火気の注意 ◎修学旅行と安全	●自転車の安全で正しい乗 り方 ◎災害時の安全な避難方法 と、日常の備え(地震、津 波)	●けがの発生状況とその防 止 ●自分の健康チェック	●1年間の反省
身の回りの環境を整えよ 交通事故の責任と補償	●自分の健康チェック	●冬休みの生活設計と安全 ●火気の注意	●自転車の安全で正しい乗 り方 ◎災害時の安全な避難方法 と、日常の備え(地震、津 波)	●けがの発生状況とその防 止 ●自分の健康チェック	●1年間の反省 ●学校、教室環境の整備修 繕(奉仕活動)
生活安全委員会	・生活安全委員会	・生活安全委員会	・生活安全委員会	・生活安全委員会	・生活安全委員会
	・防犯対策避難訓練		・防災避難訓練(地震→津 波) ※小中合同実施	・公立高校入試	
夕暮れ時の危険防止につ て	・身体の安全	・登下校の安全について ・修学旅行における安全に ついて	・避難時の約束と、避難経 路について(防災避難訓 練)	・施設・設備等の安全な使 い方について	・1年間の人的管理の評価と 反省
安全点検(1日)	・安全点検(1日) ・避難所として開放する教 室等の点検	・安全点検(1日)	・安全点検(1日) ・防火設備、用具の点検整 備 ・通学路の見直し	・学校環境の安全点検及び 整備(備品) ・安全点検(1日)	・1年間の学校環境安全点 検の評価と反省 ・安全点検(1日)
地域学校安全委員会 (学校保健委員会)	・通学路点検 ・防犯研修	・地域防災訓練の啓発 ・年末年始の交通安全運動 の啓発	・応急手当と緊急時校内連 絡体制 ・防災に関する研修(避難訓 練)	・学校運営協議会	・地域交通安全パトロール
身のまわりの環境を 整えよう。	自ら健康を維持していこう	冬休みの安全な生活に ついて考えよう	冬期の安全な生活について 考えよう	事故災害から身を守り 適切な行動をしよう	安全な生活が できるようにしよう

## 5 授業実践例

小学校 第5学年 理科「流れる水の働きと土地の変化」 内容B(3)ウ

### ◆単元のねらい

雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化する場合があります。これを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付ける。

### ◆展開例(一部)

学習活動	主な発問	○教師の支援 ※評価
1 本時のめあてを確認する。		
地域 <small>の</small> 川を知り、土地 <small>の</small> 変化を考えよう		
2 地域の浸水災害等について話を聞く。	○气象台の方からお話を聞き、これまでに起こった、地域の浸水災害について考えましょう。	○災害に関する年表、旧河川の地図・航空写真等を参照しながら、地方气象台の方に、地域の浸水災害等について話をしてもらおう。
3 洪水の発生原因やその影響について考えたことを発表する。	○どのようにして洪水が起こるのか、お話や資料をもとに考えて、発表しましょう。	○増水による土地の変化の様子について確認する。 ・映像資料等を活用する。 ○雨の降り方によって、土地の様子が大きく変化する場合があります。捉えるようにする。
4 洪水に対しての工夫や安全な行動について考える。	○洪水の被害を減らすために、わたしたちにどんなことができるでしょう。	○これまでに、地域でどんな対策が行われてきたのか話を聞くことで洪水に対しての工夫や安全な行動について考えさせる。
5 本時のまとめをする。		※洪水の危険性と地域に発生しやすい洪水について理解し、安全な行動の仕方について考えている。(発言・ノート)

#### 【安全教育との関わり】

日常生活との関連としては、長雨や集中豪雨がもたらす川の増水による自然災害に触れるようにすることが安全に関する指導につながります。また、川の現地学習を行う際には、気象情報に注意するとともに、事故防止に配慮するように指導することも大切です。



中学校 第1学年及び第2学年 保健体育（体育分野）H 体育理論  
 「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」 内容（2）ウ

◆単元のねらい

運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があることがわかる。

◆展開例（一部）

学習活動	主な発問	教師の支援
1 本時の課題を確認する。		○授業で扱う運動種目を提示する。
運動種目にあつた準備運動を考えよう。		
2 体育分野で扱う運動種目について準備運動を考える。	○これから行う運動にあつた準備運動のメニューを、参考資料をもとに、組み立ててみよう。	○運動種目の特性を、けがの発生部位の視点で考えるよう助言する。 ○日本スポーツ振興センターデータ各種ベースを提示する。
3 考えた内容を発表する。	○安全に行うために、けがをしやすい体の部分はどこだったでしょうか。また、配慮する事は何でしょうか。	○発表内容を体育分野の準備運動に生かせるよう掲示物を作成し提示する。
4 本時のまとめをする。		

【安全教育との関わり】

保健体育科では、身近な題材を活用することにより、安全についての科学的理解や、現在及び将来の生活において安全の課題に直面した場合に的確に思考・判断する力を育成することが可能な教科です。

安全に関する指導については、体育分野と保健分野の内容について適切に結びつくように配慮すること、また、他教科等との連携に配慮することで理解を深めることができます。